

国労東日本本部定期大会・特集



高野委員長あいさつ
大会での高野委員長のあいさつを記載します。詳しくは、後日発行される国労東日本本部の機関紙を参照してください。

団結力を次につなげる



NO. 734
発行
11・9月25日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
関川 和彦
編集責任者
教 宣 部



3・11東日本大震災で亡くなられた組合員、家族の冥福をお祈りします。15745名の方々が亡くなられ、4467名が行方不明、20212名の方々が犠牲になっている。大きな被害を受けた、原発の放射能物質が出ている状況、6ヶ月が経過しているが復興が進んでいない、原発の問題、災害に対しての要求など追及して行く。

組織拡大を 進めていく

JR不採用問題について終結した年になった。この闘いによる団結力、あきらめない気持ちを中心に

関東貨物協議会
第24回定期委員会
11月3日(木・祝)
13時~17時(予定)
新橋交通ビル3F会議室



一括和解以降、現場の状況について、労働条件について強化・点検・調査活動の取り組みを進める。また、職場では事故が多発している。

つなげていく。組織拡大を進めていく。水戸・神奈川で拡大した。若い仲間に対して、長野地本でも拡大の気運が高まっている。



労働条件改善、高齢者の雇用確保、エルダー社員制度。出向者の労働条件は厳しい状況だ。グリーンスタッフの雇い止めなど、労働条件改善の闘いを進める。
人事賃金制度の見直し交渉について、国労の要求に沿った改善を進めていく。制度上の改善を進める。交渉以外で職場で、できる運動を進め、要求の実現を進める。

全体の意見

東日本大震災、原発事故による放射能について、JR東日本社員の健康管理について診察・診断を要請する。

検修外注化、全面外注化について見直し強化など、取り組んでいく。しっかり議論を深め全力で要求実現に向けて取り組んでいく。

国鉄闘争後の国労運動が求められているのではない。職場内の状況について、要求・報告が少なくなってきた。職場の仲間意識、団結がどのようになっているのか総括が必要だ。
契約社員の雇い止めが来年になるが人材育成がされていない。国労は契約社員についての考えなど方針はどうなっているのか。要求前進は、地域の要求を含めた闘い、取り組みを(2)と。

エルダー社員の発令、本人が会社を探している実態。エルダー社員の労働条件改善について、どう要求し改善したらいのか。具体的取り組みを示して欲しい。会社には組合が無い、交流会を開催し



(裏面に続きます)



全体の意見

エルダー社員（運転職場）は構内運転を希望したが希望どおりにならなかった。後から来た他労組のエルダー社員が構内運転の発令となった。現場でプロパー社員との交流を深めることによって職場の環境が変わってきた。

組織拡大の大きな課題だ。3年前に2名拡大した。その後、1名が復帰した。国労の世話役活動によって若い社員との信頼関係が深まった。横のつながりも強化し配転後も交流を深めていく。連絡会の設置をした。

JR不採用問題も終結へ。闘いの総括をきつちとすること。地域共闘の多くの仲間との取り組み・ひとりの首切りを許さない鉄の団結があったが、職場闘争が若干後退した面があった。しかし組織を守る闘いがあった。その背景の中で組織拡大について進められなかったが機関中心に意思統一を進めた。



組織拡大は職場活動などの取り組みから国労加入へつながっていった。職場内の意思統一が広がっている。信頼だけでなく、一歩前へ出る取り組みが拡大へつなげている。組合への無関心な若者が多くなっている。運動を強化するため、横・縦のつながりを深めていく。

新人事賃金制度は厳しい賃金体系だ。昇進・昇格について公平・公正になるのか、職場で他労組へも呼びかけている。



エルダー職場は業務委託駅が8駅になり、ひとり勤務になった。年金満額支給まで働かなければならないが、半分以上の賃金で職場は厳しい労働環境になっている。エルダーになったら退職せざるをえない。エルダー以外は若年出向になっている。業務委託駅に国労組合員が多く配属になっている。

設備メンテ（電気）は業務が増えている。事故が発生した時に対応している。現場で不良箇所が、わからなかった、技術継承に問題がある。

エルダー（清掃部門）は出向会社の、保険証・賃金格差・職場環境の悪化について、5年間で労働条件改善を、団交も含めて取り組むこと。日航の不当解雇・不当労働行為についてエリア本部も取り組む決意を。



国労新潟県支部 第4回定期大会 10月22日（土） 地本事務所



JR不採用問題も終結を迎えた重要な大会だ。今日まで全力で取り組んできたが全国大会で終結となった。支援共闘から、雇用されないのは残念だが当事者が決めたこと。国鉄闘争は闘いの原点、それ以降も共同行動を展開していく。国労は、これから地域へ返していかなければならない。共闘していくこと。

組織拡大も新採で国労加入した青年は元気でがんばっている。車掌の試験に合格、差別をさせない取り組みが進んでいる。組織対策会議を定例開催している。新採者への組合説明の実施やチラシの作成など取り組みんでいる。他労組へ懇親会参加の呼びかけ、他労組の組合員が参加している。職場の問題点を改善していく取り組みを進め全組合員が自信と確信をもって組織拡大に取り組む。国労運動はこれからの重要だ。

委託職場の労働条件改善の闘いについて、各系統で外注化が広がっている。問題点改善には、団交が必要で直接申し入れを実施していくこと。



契約社員の雇止め問題も契約社員の雇用継続について合格・不合格があり、職場の人間関係など職場環境が悪化している。契約社員の正社員化を要求していくこと。不合格者へ国労加入を呼びかける。契約社員化反対の取り組みも進めていくこと。

東日本大震災で亡くなられた方々の御冥福を。そして仲間の支援に対し御礼と感謝を。福島は原発事故などで厳しい実態になっている。会社は、放射能汚染に対して国や電力会社の対応と回答している。放射能汚染で、家族と離れ離れで単身赴任でがんばっている組合員がいる。社員の健康についても会社は放射線量を測定しない。測定・除染した自治体は戻れるがそれ以外は危険だ。

号次集を次号も引き続き載せたいです。大会特集を次号も引き続き載せたいです。特集が長くなりましたが、代議士の発言内容はすべて載せたいと思います。地本・教宣部